

# コミュニティ壬生野 第33号

壬生野地域まちづくり協議会広報

2008（平成20）年1月1日発行

## 会長新年のご挨拶

### 平成20年 年頭にあたって

会長 山本和生

新年あけましておめでとうございます。健やかによいお年をお迎えのことと存じます。

平成19年は、みなさまのご協力のおかげで、計画通りに心に残る事業を展開することができました。心からお礼を申し上げます。

平成20年も絶大な地域のみなさまのご理解とご協力を頂いて「住民による」「住民のため」の壬生野地域まちづくり協議会の事業を展開して参りますので、よろしく願いいたします。

さて、社会・経済情勢を眺望しますと、「平成」の元号も20回となり、地球環境を意識した時代の変遷を痛感するところですが、原油高、原材料高を受けて軒並みの値上げ攻勢で身近な日常生活に少なからず影響がでて参りました。

また、政治の面でも衆参ねじれ現象で、われわれの生活に関連する法律の成立が遅々として進まず、物事の進捗を阻んでいます。

そんな中、壬生野地域まちづくり協議会の平成20年の事業は、

#### ①地域防災対策事業推進

これは、昨年を引き続き、2年目の取り組みとなります。

#### ②壬生野まつりの拡大、充実

新たな試みによる活性化を目指します。

また、日常の活動の面では「あいさつ」と「見守り」と「声かけ」を着実に実行し、地域の結びつきを深くし、防犯、交通安全に配慮した、安心・安全の活動を促進します。

申し上げるまでもなく、青色回転灯装備車による巡回パトロールやときめきサロンによる住民の自由な交流やコミュニティ壬生野の広報活動は、従来通り少ない予算を効率的に実行して参ります。

ここで一番大事なことは、みなさまのご意見やご提案を協議会の運営に活かすこととあります。いつでも、どこでも、どんなことでも、口頭でも、電話でも、メールでも、意見箱でも結構ですから、ご意見をお寄せください。

終わりに、平成20年の壬生野地域まちづくり協議会は、秋に予想される、壬生野地区市民センターの完成を軸に地域の住民のみなさんのための様々な展開が期待できます。官民、物心両面から、遅滞なく対策を講じて参りますのでよろしくご支援のほどをお願い申し上げます。

みなさまのご健勝とご多幸を念じつつ、新年のご挨拶といたします。



## 壬生野地域まちづくり協議会クリーン作戦をおこなう（生活環境専門委員会）



去る12月16日（日）、生活・環境委員会の提案のもと、壬生野地域のクリーン作戦を実施しました。雨模様の日でしたが、ゴミ袋と火ばさみを持って、各組（班）毎に空缶やナイロン袋などの捨てられたものを拾い集めました。特に、名阪のインター付近や側道、道沿いの空き地などにポイ捨てゴミが多かったようです。

各地区（団体）での集約されたゴミの分別収集、処理場への持ち込みなど区の幹部の方々に大変ご苦労をおかけしました。

# 防災講演会

演題

向う三軒両隣  
みんなで助け合うために

日時 平成20年2月5日(火)  
午後7時30分～午後9時

場所 壬生野小学校ランチルーム

## 参加者が準備するもの

筆記用具	鉛筆かボールペン
新聞紙	2枚
空き瓶(広口びん)	透明なもの 1個
ティッシュペーパー	1枚
アルミホイル	7cm角1枚
サラダオイル	少々

講師 防災の語り部  
災害ボランティア鈴木理事長 南部美智代さん

講師紹介 19年度 防災大賞受賞  
災害ボランティアネットワーク鈴木理事長  
内閣府 防災ボランティア検討委員 などにご活躍中です

防災への関心をより深めていただくために、住民の皆さん特に女性の方々に多数の参加をお願いします

主催 壬生野地域まちづくり協議会  
「地域防災特別実行委員会」

## 長島愛生園訪問研修よりⅣ

先月号に引き続き、長島愛生園訪問研修についてお伝えします。今回は参加者の感想を紹介します。

ハンセン病は、感染力が弱く、簡単に感染しないことが明らかになったにも関わらず、国は隔離政策を続けてきた。ふるさとを奪い、家族を奪い、本名までも奪われたこの屈辱を言い逃れの出来ないこの事実を国はどう考え、どう責任を果たすのだろうか。入所者は、高齢化し、数十年後には療養所自体なくなってしまうのかもしれない。このような差別があったことも、忘れられてしまうのかもしれない。

私が隔離してきたもの、それは、部落差別かもしれない。人権センターに勤務するまで、部落の実態を知らず、触れてはいけないことのように思っていた。その隔離は、解放されつつある。部落の人との交流や学習の結果である。

この訪問を終えた私にできることは何なのか。交流を深めること、ハンセン病回復者が自由に里帰りできること、そしてこの問題を風化させないことではないか。アウシュビッツ＝ビルケナウ強制収容所は、第二次世界大戦中にナチス党率いるドイツ(ナチス・ドイツ)が推進した人種主義的な抑圧政策により、最大級の惨劇が生まれたとされる強制収容所である。ユネスコは2度と同じような過ちが起こらないようにとの願いを込めて、1979年「負の世界遺産」に認定した。

(山本眞司)



### 研修の概要

開催日：9月24日 参加者：23名

目的：ハンセン病患者に対する過去の誤った隔離政策やハンセン病に対する根強い偏見が今も残っていることを知るとともに、様々な人権問題に触れ、自分の差別意識を見直し、壬生野地域の啓発につなげていきます。

企画：人権同和合同委員会

## 楽しくつどう会

壬生野小学校

12月1日、天候にも恵まれて、多くの保護者・地域の方々に来て頂いて、「楽しく集う会」を行いました。午前中は、「人権学習発表会」として各学年の人権総合学習の発表がありました。

1年生は、「わたしのものがたり」と題して、生まれる前から今までのことを家の人に聞いて、その聞き取りをもとに発表しました。

2年生は、「おうちの人のしごと探検」という題で生活科の学習から「おうちの人の仕事」について発表しました。おうちの人が仕事をしていて、うれしいことやたいへんなこと、家族や私たちに対する思いや願いを発表しました。

3年生は、「わたしたちの出会いから～たもつさんはかっこいい～」という題で、山畑の北村保さんに会い、話を聞かせていただき、考えたことをもとに発表しました。

4年生は、「出会い・体験・発見～考えよう！わたしたちのくらす環境～」と題して、壬生野の自然探しに出かけ、住みよい環境ということで体験したことや考えたことを劇や呼びかけで発表しました。

5年生は、「自信・安心・自由！！」という題で、校外学習で、三重県人権センターに見学に行ったとき、若山こうじさんから話を聞いて、学級で「自信」「安心」「自由」について話し合ったことをもとに寸劇を交えて発表しました。

6年生は、「利根川～歌と朗読による自己表現～」という題で、表現活動を通して、心と身体を解放することをめざして取り組んできたことや仲間として高まってきたことを「利根川」を通して表現しました。

子どもたちは、少し緊張気味でしたが、精一杯学んだことを大きな声で発表し、たくさんの温かい見守りや拍手を頂きました。

お昼には、PTAの生活部が中心となったバザーを行いました。今年は、地元企業やお店の方に協力していただき、商品を安く提供してもらって、食品などの販売をしました。

午後からは、収穫祭を行いました。給食では、全校で栽培し、この秋に収穫したさつまいもを使った「さつまいも汁」をおいしく頂きました。そのあと、さくら会の役員が中心になって「クイズ大会」や「たから探しゲーム」をしました。そして、最後に5年生の子どもたちが栽培した赤米を使って、地域のおばあちゃんを中心になって頂いたお餅を食べました。子どもたちは、「ぼくも」「私も」とたくさんおかわりしていました。つきたてのお餅は、おいしかったようです。保護者、地域の人にお世話になりながら、楽しい行事になりました。



## 桃の植樹

昨年12月9日、果樹園に桃の苗木を植えました。植樹には村の人や子どもたちが多数参加しましたが、その時に桃のお世話係の松井巧（たくみ）さんがしてくれた話を紹介します。松井さんは35才で、19才の時から桃や葡萄、梨、みかんなどの果樹のお世話を専門にしてきました。

『果樹は自然の木と違って、人の手が加わっているのです、お世話しないと枯れてしまいます。この桃の木にどんな風に手を加えていくか、これから村の人たちと一緒に考えてやっていきたいと思います。日本は果樹栽培の技術が進んでいて、芸術的と言える果物を作ることもできるし、それもいいんだけど、そうじゃなくて、村の色々な人が色々な形でかかわって作っていくやり方もあると思う。蕾の時、花の時、実が大きくなっていく時、その時々色々な作業があるので、一年を通して、また何年か続けてやったら結構おもしろくなってくると思います。皆さん、桃園に足を運んでください。』

今はまだ苗木ですが、5年後には食べられる実を結ぶそうです。いずれ壬生野の皆さんにも来ていただける日を描いて、楽しみにお世話をしていきたいと思います。

今年もどうぞよろしくお願いします。



## お知らせ

10月27日に「いがまち展覧会」がありました。その折、柘植・西柘植・壬生野の地域まちづくり協議会でチャリティバザーを行いました。その収益金を5つの保育園に絵本の購入の足しにとお送りしました。その礼状が希望ヶ丘・壬生野両保育園のはとぐみ・ゆりぐみさんから届きました。（右の絵は両保育園の皆さんの礼状です）

各地区のバザー用品の集約ありがとうございました。当日の売り上げをこのように利用させて頂きました。

## ときめきサロン

土曜日の午前中は、まちづくり協議会の事務所（壬生の里 2階）へお出かけ下さい。

図書の貸し出しをします。お茶やコーヒーを飲みながら、楽しくおしゃべりなどもしませんか。是非、子どもさんも一緒に“くつろぎの場”としてご利用下さい。（8:30～12:00）

1月のお世話をさせて頂く担当者は、下記の通りです。

5日（土）	三根幸治 前畑征彦 福田律子
12日（土）	中林正彦 福島裕美子 古川早織
19日（土）	草山靖雄 五百田正一 南出ゆう子
26日（土）	舘 忠蔵 川口浩哉 澤野徳子

### 編集後記

子どもたちは、壬生野の自然や人と出会い、その出会いを通して学習を深めています。また、学習田での餅米作りやさつまいもの栽培、大根やひの葉の栽培と漬け物づくり。収穫祭でのお餅つき等々。様々な学習の場で多くの地域の人に協力を得ています。私は、子どもたちの学習から、自然のすばらしさはもとより、人と人がつながることの温かさを感じています。

子どもたちは壬生野が大好きです。子どもたちの様子が少しでも多く、地域の方々にわかっていただけのような記事づくりを心がけたいと思っております。

言うまでもなく、私も「壬生野 大好き！」です。（川端明子）

◇◇◇ご意見・お問い合わせは下記までお寄せ下さい◇◇◇

発行 壬生野地域まちづくり協議会 広報公聴実行委員会  
事務局 三重県伊賀市川東 1659-5 壬生野福祉ふれあいセンター内  
Tel・Fax 0595(45)6270 E-mail tokimeki@ict.ne.jp URL <http://www.mibuno.net>